

野場横落線 J R 交差プラン確定を



新観音橋－丸田踏切がベスト



つづき ゆきお 議員
都築 幸夫



JR交差未接続の野場横落線

現在未接続の野場横落線 J R 交差を、今後どう進めるのかを問う。

問 J R 交差の実現案として、新観音橋、丸田踏切ルートはどう思われるか。

答 建設部長 ▼ 向こう30年以上の単位で使用する、幸田町の東西を結ぶ本命ルートの位置づけとして、検討していく。

問 広田川改修に伴う、新観音橋の架け替

えは、いつ頃の予定か。

答 時期は未定。河道改修に併せて架け替えを行う予定。改修工事が順調にいけば、令和12年頃着手か。

幅員は最小でも6 m は必要。今後はこの辺を考慮し調整する。

問 野場横落線 J R 交差プランを、実現可能性のある案で確定する時期ではないか。

答 町長 ▼ 新観音橋に架け替えながら、丸田踏切を通して、前

田交差点に接道させる考え方がベストと思う。

河川利用自転車道ネット形成を

堤防舗装で自転車道配置を推進

町民が安全安心な自転車活用推進するには、本町はどう進めるのかを問う。

問 幸田駅東駐輪場の屋根なし箇所に、屋根を付けて頂きたい。

答 環境経済部長 ▼ 設置に向けて現場調査し、利用状況の調査をしながら、第2期工事として動いていく。

問 一般成人にもヘルメット購入補助を。

答 総務部長 ▼ 7歳未満の未就学児、19歳から64歳までの人にも、令和6年4月1日から補助対象とし、進

める。

問 ヘルメット着用促進の為、錦田幸田一号线路面の自転車ピクトグラムに、目立つヘルメット着用を。

答 建設部長 ▼ ピクトグラムを、茶色のヘルメット着用に変更し、ヘルメット着用努力義務化を啓発する。

問 相見通りの歩道は、小学生の通学路である。児童の交通安全を守る為、歩行者と自転車の分離が必要ではないか。

答 自転車は車道側、歩行者は内側の通行を促す路面標示を、歩道内に設置する。

併せて、自転車の車道寄りの徐行走行を啓発し、交通安全を図る。

問 町道戸谷高力線の歩道は、幸田高小生の自転車通学路だが、

路面の凹凸が激しく安心して走れない。平坦な歩道に整備を。

答 菅田の交差点から幸田セントラルポ

ウルまでの、段差が著しい7カ所を滑らかにする改修工事を、年度内に進める。

問 自転車利用の環境を整えるため、町内の一級河川の広田川、舟山川、赤川、相見川、尾浜川の堤防を舗装整備し、町道・県道とリンクした、水と緑の自転車道ネットワーク形成を。

答 河川堤防を舗装整備して、歩行者道や自転車道などの配置を推進する。

ことば解説

【※】ピクトグラム

意味するものの形状を使って、情報が伝わるように表された記号（絵文字）。



藤本 和美 議員

太陽光パネルの設置規制条例は

先行自治体を研究し検討



能登半島地震の翌日、経済産業省が、災害で破損した太陽光パネルにむやみに近づかないよう注意喚起した。

問 震災時の注意事項を周知すべきでは。

答 環境経済部長▼ホームページや広報誌等で周知を図る。

問 斜面に設置の太陽光パネルは住民も不安。設置に規制は。

答 設置できる土地は雑種地、原野、山林、宅地が条件。山林は0.5ha以上は都道府県の許可が必要。

問 公共施設の太陽光発電の効果は。

答 役場、保健センター、小中学校等10施設に設置。施設の使用電力量に対する太陽光発電量は1割弱。

問 いずれ大量廃棄の時期を迎えるが、廃棄場所と廃棄方法は。

答 太陽光パネルには鉛、セレン、カドミウム等の有害物質が含まれるため、許可を得た収集運搬業者や埋立処分業者が、管理型最終処分場へ埋め立てる。

問 太陽光パネルの消火方法と注意点は。

答 感電を避けるために噴霧状に放水し、建物内では絶縁性の高い手袋を使用。消防署に設置状況、発電量、位置情報の提供を。

問 設置場所の規制は全国で270以上の条例があるが、地域の安全と自然を守るために本町での制定は。

答 適正な設置と自然環境の調和が求められ、先行自治体を研究し条例の必要性を検討していく。

討していく。

児童虐待の状況は

要保護児童は19人

電話番号「189（いちばやく）」で、

すぐに電話で通報することが周知された。

問 児童虐待の状況は。

答 住民こども部長▼虐待通報は62人、要保護児童は19人。小学生と、0～3歳未満

の年齢区分が多い。

問 予防的介入は。

答 保育園、小中学校では不自然なあざがあればすぐに連絡。

健康保健担当参事▼

母子手帳交付時に面接を実施し、情報収集。産科など関係機関と連携。産後母子育ての孤立化を防ぐため、地区担当保健師が身近な相談先として寄り添う。

問 虐待防止には地域連携が不可欠では。

答 住民こども部長▼民生児童委員が様

子見や相談役を行い、助かっている。

問 転居した際の自治体間の引き継ぎは。

答 市町村間と児童相談所間でしっかりと情報共有している。

問 親子が遊びに行ける子育て支援センターは老朽化が課題だが、今後の計画は。

答 48年が経過。大規模改修や新設の計画はないが、利用者や職員の声を聞き、随時修繕等を行うことで安全快適に使用していく。

問 こども課が子ども家庭総合支援拠点だが、職員が兼務で4人では少ないのでは。

答 令和8年4月には、こども家庭センターを設置検討。専門的人員の常時配置など体制の強化、整備を図る。



みんなで見守る子どもの笑顔